

2017年

日本語教師ボランティア その5
(技能実習生について)

土曜教室 小林 保

ITMの技能実習生は若く、年齢は殆どが18~28歳です。男女比は若干女性の方が多いうです。貧しい家庭で育ち、皆一様に金を稼ぐためだけに日本に行くと思われがちですが、いろいろな人がいます。大学を卒業し英語を話せる人、法律を勉強した人、化学を勉強した人も中にいます。比較的裕福な家庭に育った人も地方の裕福でない家庭に育った人もいます。ただ、全体的には日本に行く第一の目的はお金が欲しいからだと思います。

日本語の習得度もかなり個人差が大きく、中には数か月、日本語を勉強しただけなのにかなりのレベルで日本語を話せるようになる人もいます。その才能には驚きます。育った環境も、持っている資質も実に多様です。既婚で家族をベトナムに残す人、夫婦ともに技能実習生として日本に行く人もいます。

日本での仕事が終わりベトナムに帰ったら、どんな職に就きたいかと聞くと、殆どの方がベトナムにある日系企業で働きたい、或いは、日本語教師になりたいと答え、そのステップとして技能実習生を選択した人も多いうです。日本人がワーキングホリデーで英語圏に行くのと近い感覚の人もいます。

多様な実習生がいるのにも関わらず、ベトナム側の送出し機関、日本側の受入機関ともに、十把一絡げに数合わせで割り振りをしているようです。私の担当したクラスで、夫は名古屋に妻は福岡県に行く人がおり、お互いの場所に行くための交通費はいくら、時間はどの位からかかるか等を質問してきました。送出し機関にはもう少し配慮して二人を近い所にして欲しいとも思います。

女性は比較的規模の大きい工場で電子部品の組み立て、海産物の加工、畜産／養鶏加工などの職種が多く、毎年数十名が行く会社も数多くあります。男性は比較的規模が小さい農業、土木、建築、板金塗装、機械加工の会社が多いようで、就業規則はあるのか、労務管理は大丈夫か等の不安はあります。

9月13日、(14日)深夜、ホーチミン空港からITM第1センター32名の実習生が日本に向け出国しました。行く先は鹿児島：12名、佐賀：15名、神奈川：2名、三重県：3名です。

昼頃から実習生の家族がITMに来て、寮から車に荷物を運んだり、別れを惜しんだりしていました。

全ての実習生が、3年間の日本での仕事を終え、無事に家族、友人、恋人の待つベトナムに帰国することを願っています。



校舎から出国する実習生達を見送る実習生



実習生と母親



父親と実習生



大量の缶ビール



